

「違ふコガク人」やない

Toshiyuki Shibata & Anthony Romaniuk Duo Recital

柴田俊幸 & アンソニー・ロマニウク デュオ・リサイタル

2024

5/2

木

19時開演
(18時30分開場)

©sightways

三鷹市芸術文化センター
風のホール

チケット 全席指定、税込

S席:4,000円 A席:3,000円
U-25席(S/A共通):500円

*U-25は25歳以下対象のチケットです。公演当日年齢を証明できるものをお持ちください。

チケットプレイガイド

●イープラス (<https://eplus.jp/sf/detail/4055720001>)→

●三鷹市芸術文化センター チケットカウンター
Tel:0422-47-5122

受付時間:10:00~19:00 休館日:月曜日(祝日の場合は翌々日)
※3月19日(火)10時から5月1日(水)19時まで取扱い予定

【お問合せ】テレビマンユニオン (md_info@tvu.co.jp)

主催・制作: テレビマンユニオン

助成: 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

【東京ライブ・ステージ応援助成】



イープラス
専用QR

ARTS
COUNCIL
TOKYO

柴田俊幸 (フラウト・トラヴェルソ、リコーダー、フルート)
Toshiyuki Shibata / Flauto traverso, Recorder, Flute

アンソニー・ロマニウク (フォルテピアノ、チェンバロ、フェンダー・ローズ)
Anthony Romaniuk / Fortepiano, Harpsichord, Fender Rhodes

PROGRAM

◆J.S.Bach —

Anthony Romaniuk = Toshiyuki Shibata: **Fantasia on a Sarabande**
(After "Partita for Solo Flute BWV1013" Sarabande)

◆J.S.Bach — **Suite in E major, BWV 1006a - Prelude**

◆Anon: **Het Gruuthuse-handschrift II.108 Musette en rondeau**

◆J. Dowland / J. Van Eyck — **Lachrimae Pavan**

◆C.Ph.E.Bach — **Hamburger Sonata Wq. 133**

◆Chick Corea — **Children's Songs No.1, No.4**

◆György Kurtág: **Hommage à J.S.B.**

◆György Ligeti — **Hungarian Rock**

◆Philip Glass — **Façades and more**

※やむを得ぬ理由により内容・曲目等の内容変更の可能性がございます。

時代、様式、楽器の壁を超え、 シームレス（「境目のない」）な多様性へ

ヨーロッパを中心に活動するフルート奏者 柴田俊幸と、古楽からコンテンポラリー、クラシックからジャズ、アンビエントまで多彩な活動を展開する鍵盤楽器奏者 アンソニー・ロマニウクによるデュオ。
コロナ禍中、2022年東京・春・音楽祭の最終公演で発表し話題騒然となったプログラムが、2年の時を経て東京にて最新版として再演される。
バッハから、チック・コリア、フィリップ・グラス、ジョルジ・リゲティといった近現代の作品までを即興を交えて境目なく演奏。本当の多様性とは何か、音楽を通じて観客に問いかける。

PROGRAM

- ◆J.S. バッハ —
A. ロマニウク=柴田俊幸：サラバンドによるファンタジア
（無伴奏フルートのためのバルティータ イ短調 BWV1013 にもとづく）
- ◆J.S. バッハ —
リュート組曲 ホ長調 BWV 1006a より前奏曲
- ◆作者不詳 — フルートフォーセ写本 II.108 より
- ◆J. ダウランド — J. ファン・エイク：涙のパヴァーヌ
- ◆C. Ph. E. バッハ — ハンブルガーソナタ ト長調
- ◆C. コリア — チルドレンズ・ソングズ より No.1, No.4
- ◆G. クルターグ — J.S.B. へのオマージュ
- ◆G. リゲティ — ハンガリアン・ロック
- ◆P. グラス — ファサード ほか

※やむを得ぬ理由により内容・曲目等の内容変更の可能性がございます。

ACCESS

会場 | 三鷹市芸術文化センターへのアクセス

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-12-14
電話：0422-47-9100（施設受付・事務局）

- ◎JR三鷹駅南口2番バスのりばから3つ目、
「八幡前・芸術文化センター前」下車すぐ。
- ◎または5・6・7番のりばから「八幡前」下車1分
- ◎または徒歩約15分



©sightways

ヨーロッパを中心に活動するフルート・トラヴェルソ/フルート奏者。

ブリュッセル・フィルハーモニック、ベルギー室内管弦楽団などで研鑽を積んだ後、古楽の世界に転身。ラ・プティット・バンド、イル・フオンダメント、ヴォクス・ルミニス、ル・コンセール・ロランなどヨーロッパの古楽アンサンブルに参加。2019年には、ベルギーのB' Rockオーケストラの日本ツアーにソリストとして抜擢された。2020年のコロナ禍で密を避けた宅配型演奏会「デリバリー古楽」をプロデュースし、「四十雀賞」を受賞。2022年には鍵盤楽器の鬼才アンソニー・ロマニウクと『J.S. バッハ：フルートソナタ集』（Fuga Libera）をリリースし、レコード芸術の特選盤、レコード“裏”アカデミー賞に選出された。これまでに「テューリンゲン・バッハ週間」「バッハ・アカデミー・ブルージュ音楽祭」「東京・春・音楽祭2022」などの国際的な音楽祭にてリサイタルを行う。2024年、第49回国際バンブーオルガンフェスティバルに講師として招かれ、バッハのヨハネ受難曲のドイツ語でのフィリピン初演に参加。2018年までアントワープの王立音楽院図書館・フランダース音楽研究所の研究員として勤務。ぶらあぼONLINE『古楽とその先と』プレゼンター。これまでに、『音楽の友』Webマガジン『ONTOMO』音楽メディア『FREUDE』などに寄稿。2017年より「たかまつ国際古楽祭」の芸術監督を務める。

Toshiyuki Shibata

©sightways

鍵盤楽器奏者アンソニー・ロマニウクは、自身の即興演奏の才能を生かし、幅広い音楽スタイルを常に行き来し追求する「ジャンルフリー」の音楽家である。青年期に故郷オーストラリアでジャズに傾倒し、ニューヨークのマンハッタン音楽院でモダンピアノを学んだ後、オランダのアムステルダム音楽院とハーグ王立音楽院でチェンバロとフォルテピアノを学ぶ。

ヒストリカル楽器を用いてのルネサンス～後期ロマン派からモダンピアノでの現代音楽に至るまで多彩なレパートリーを持つ一方で、即興、アンビエントやエレクトロニカ等の領域でも幅広く演奏活動を行う。

古楽アンサンブルのヴォクス・ルミニスのコアメンバーとしても活動するほか、パトリシア・コパチンスカヤ（ヴァイオリン）、ピーター・ウィスベルウェイ（チェロ）など数多くの世界的アーティストやアンサンブルと定期的に共演。また、デンマークのロックグループ「Efterklang」や、ポスト・クラシカルを代表する作曲家ニルス・フラームなどクラシック以外のアーティストとも積極的にコラボレーションを重ねる。

ソロ・アルバム『Bells-鐘』『Perpetuum』では、複数の鍵盤楽器の音色を用いてレパートリーと即興を融合、作品の時代を超えて音楽の境界線を押し広げる。

2024年ブルージュ国際古楽コンクール（フォルテピアノ部門）審査員。